

ひる 「怯まず・屈せず・逃 みんなの願いを実

全国唯一、6年連続で財政赤字を減らし、信州型木製ガードレールを始めとする、地域密着型のしがらみのない「新党日本」には、具体的な実績に裏打ちされた斬新なアイディアと、私利私欲や

発想を変えよう

サラリーマン所得は8年連続で減少中。
なのに、秋の国会で消費税値上げを
議論するのが既定事項だなんて…。
今のニッポン、おかしいよ!

社会保障費が急増するから、増税は避けられない。こうした永田町や霞が関の論理こそ、現実を見据えぬ非常識な理屈です。世界屈指の超少子・超高齢社会ニッポンでは、毎年80万人も人口が減少。東京23区で最も多くの住民が暮らす世田谷区が、まるごと1つ消滅していく深刻な事態なのです。

労働人口も減少する中で税金を上げれば、納税者1人当たりの実質的な負担は上げ幅の2倍、3倍に。取り分け、消費税が上がると、財布のひもを締め、民間消費は減退し、景気回復も失速してしまいます。少子高齢時代に見合った21世紀型の社会を創るには、“増税無き財政再建”こそ不可欠なのです。

選択を変えよう

地域の福祉や雇用の充実が求められて
いるのに、相変わらずなハコモノ行政。
世界最悪の赤字財政だなんて…。
今のニッポン、おかしいよ!

送迎バスに揺られて遠くのデイサービスセンターへ出掛けるのは、高齢者に負担を与えます。商店街や集落の空き家を活用してデイサービスを行えば、老人にも街角にも元気が生まれます。

その発想を長野県で実行に移したのが、自宅感覚の宅老所。保育士の資格を持ったスタッフがいれば、3歳までの乳幼児保育も対応可能な宅幼老所。世代を超えた地域の絆が生まれます。県独自の積極支援で、5年間に300ヶ所も誕生しました。

ところが、宅老所・宅幼老所を設ける際の改修費用は、厚生労働省の補助対象外。助成を受けるには新築が前提条件。優しさこそが求められる福祉行政まで、ハコモノ公共事業の発想なのです。これでは

仕組を変えよう

ひる
「怯まず・屈せず・逃げず」。
相変わらずな世の中を変える、
ぶれない信念を持った新しいリーダーこそ、
今のニッポン、必要なんだ!

車やガソリンに課税する道路特定財源は、年間6兆円規模。なのに、電線地中化に投じられる金額は、その中の3%にも満たないのです。今後10年間は道路特定財源の40%を投じて、道幅が狭い全国の駅前商店街で電線地中化を実現すると政治決断したら、歩行者も運転者も大歓迎でしょう。

トラブルが相次ぐ原子力発電所も、その代償として周辺自治体の道路や建物に巨額の税金を投じる前に、配管の素材を見直すべきです。強度はアルミニウムの2倍で、腐食が最も起こりにくいチタンを用いれば、安全度は飛躍的に増すのですから。根強い特養神話も、認識を改めましょう。右図で示したように、地